

Governance

ガバナンス・リーガル担当役員メッセージ



取締役
執行役エグゼクティブバイスプレジデント
コンプライアンス推進統括執行役
ゼネラルカウンスル

藤原 謙

「One Company, One Team」カルチャーを醸成し、グローバルに展開するガバナンスの深化をめざします

コーポレート機能の一元化を加速

当社は、グループの効率的で透明性の高いガバナンス体制の実現に向けて、以前から法務、内部統制、コンプライアンス推進など、コーポレート機能の一元化を進めてきましたが、2021年12月に発表した新経営方針「Forging the future 未来を拓く」における「One Company, One Team」のコンセプトのもと、この取り組みをさらに加速しています。

機能の一元化にあたっては、従来、事業会社ごとに縦割りになされていた意思決定のプロセスを、グループ会社間の垣根を取り除き、フラットな組織にすることで、グループ全体として迅速且つ効率的で透明性の高いガバナンス体制の構築が可能となりました。

そしてこのフラットな組織のコーポレートガバナンスをより強固にすべく、ERM（エンタープライズ・リスクマネジメント）を導入し全社的なリスクマネジメント体制を強化するとともに、コンプライアンス推進体制についてもグローバルコンプライアンスプログラムを設定し、各自のコンプライアンス意識醸成を促す仕組みづくりを進めていきます。

重要なことは、こうした体制を十分に機能させ実効性を高めていくことです。慣れ親しんだ仕事のやり方の意識と行動を変えていくのは大変難しいことですが、これらの新たな取り組みを

通して、従業員一人ひとりが納得して行動する「One Company, One Team」のカルチャーを醸成し、国・地域やエンティティの枠を超えたガバナンスの深化をめざします。

取締役会の実効性の一層の向上を

私のミッションは執行役として前述のコーポレートガバナンス機能を強化することですが、同時に取締役会議長、あるいは指名委員として、モニタリングボードとしての取締役会の役割・あり方を明確化し、取締役会の実効性向上を推進していきます。

2021年度の実効性向上では、新経営方針の策定、組織体制、筆頭独立社外取締役の選定、幹部の外部招聘などを議論してきました。2022年度からは新体制となりましたが、取締役会においても、社外取締役の員数を過半数としたことにより、案件に対する細かな指摘や意見交換に陥ることなく、より大局的な視点から中長期戦略、ポートフォリオ、コーポレートガバナンスなどをテーマに議論していきたいと考えています。

こうした役割認識を取締役間で確認しつつ、取締役会で議論するアジェンダについてテーマや論点を絞り、着実に監督機能を深化させることで、株主などステークホルダーの付託に応え、企業価値の向上に努めていきます。